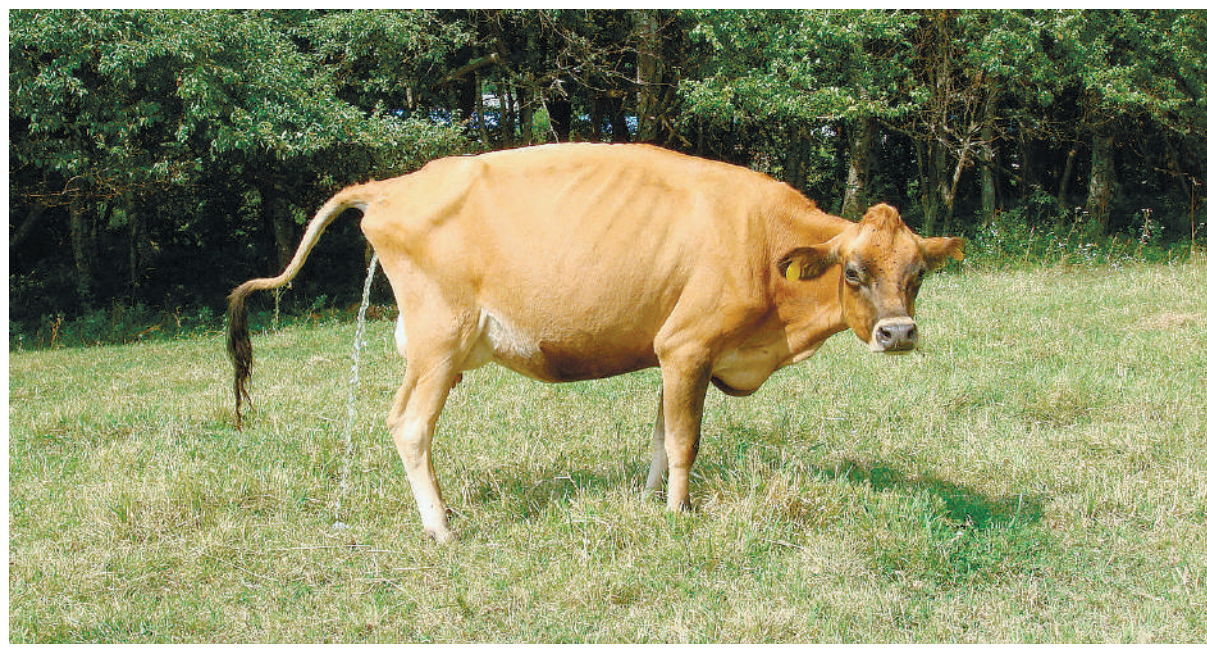


排糞時の姿勢は雄牛も雌牛も、雌牛の排尿姿勢と同様である。舎内で飼育すると排尿と同様の問題がおこる。11月9日、八ヶ岳中央農業実践大学校



雌牛は、背を丸め、尾を体から離して排尿することから、舎内で飼育すると尿で寝床が汚れることとなる。11月8日、八ヶ岳中央農業実践大学校

「動物管理で最も大事なことは清掃である」と、常々学生に指導している職員の高橋さとみさん。11月28日、八ヶ岳中央農業実践大学校



牛舎の清掃で、牛の後脚後方にある溝に糞尿を落とす学生。中にはヘルトコンベヤが糞尿を運ぶ仕組みになっている。糞尿は発酵処理後、肥料として牧草地や畑に散布する。11月19日、八ヶ岳中央農業実践大学校



一日当たり糞<sup>ふん</sup>50キロ 尿15キロ

## 八ヶ岳山麓 動物ふれあい日記

### 4 糞や尿の量も半端ない

放牧されたウシは、20〜30回続けて草を食いちぎり続け、数歩動いてはまた食べ、また移動することを繰り返します。食べる草は選べませんが、食べる場所は良く選びます。一日3〜5キロも歩き、一か所に留まらない生活なので、糞や尿をする場所を選びません。また、糞尿が体につかないように、背を丸めて用をたします。しかも、糞も尿もそれぞれ一日当たり15回もします。部屋の中で飼っても、その習性は変わりません。ベッドが広ければ所かまわず糞尿をするし、ベッドを狭くしても背を丸めてベッドの中にします。ですから、部屋の中で飼育するにあたって最も大変な仕事は糞尿の後始末です。始末した糞尿は畑や牧草地にまかれて肥料になります。乳牛の場合、一日当たり糞は50キ、尿は15キもします。これを水洗トイレに流し処理する場合、人100人分に相当します。大学校では100頭の乳牛と40頭の子牛を飼っています。君たちの町の糞尿とどちらが多いかな。

（八ヶ岳中央農業実践大学校畜産部長、佐藤栄介）

11 随時掲載

どの動物でも同じだが、ウシも舌でなめたり、後足でかいたりして、全身をくまなくきれいにする行動を頻繁に行う。これらで届かない部分は木にこすりつけたり、仲間になめてもらったりして身繕いする。9月16日、八ヶ岳中央農業実践大学校



佐藤栄介(さとう・しゅうすけ)  
1978年に東北大学大学院農学研究科博士課程修了。80年から宮崎大学助手、88年から同大助教授を務める。94年に東北大学助教授に着任。2002年からは農業・生物系特定産業技術研究機構畜産草地研究所放牧管理部長。05年から東北大学大学院教授を務める。同大名誉教授。15年からは帝京科学大学教授。19年に八ヶ岳中央農業実践大学校(原村)の畜産部長となり、現在に至る。主な著書は「アニマルウェルフェア」(東京大学出版会、2005)など。